

米沢に行くことがある。東北中央自動車道は便利である。相馬から米沢まで無料というのがいい。米沢に何をしにいくのか。第一の目的は、ラーメンである。目指すお店は二択である。どちらも行列になるため、時間帯を考慮する必要がある。

所期の目的を達成した後は、食後の美味しいコーヒーである。新しいお店を開拓しようと検索してみた。いくつも出てくる。その中から、一つに絞った。お店を選ぶには嗅覚が重要である。慣れてくると、はずすことは減ってくる。何事も経験である。

そのお店は、街の中心からはずれた山間にあった。まわりには何もない。おしゃれな佇まいだった。珈琲店に限らず、店構えというのは大事である。お店の表示や暖簾を見ると、おおよその見当がつく。ただし、経験上、ラーメン店には、この法則はあてはまらない。お店の外観ではわからないのがラーメン店のむずかしさの一つである。そこがまたおもしろい。

その珈琲店に入った。年配の男性が物静かな感じで出迎えてくれた。珈琲店に行くと、味わい深い人物に出会えることが多い。この男性もそうだった。お店はまだ新しかった。勝手に想像してみた。退職あるいは第一線を退いてからしばらくは経っている。以前から好きだった、こだわってきたコーヒーのお店を自分で出したくなった。そんなところだろうか。

お店の中はシンプルだが、一つ一つのものが凝っていた。一見すると、よくある木製のテーブルに見える。だが、よく見ると、数種類の木材の板が組み合わさっている。なかなかのものである。椅子もそうである。どこに売っているのだろうかという代物だった。ご主人の好みやこだわりを垣間見ることができた。

店内は、ゆったりとしていた。コーヒーとケーキを注文した。すると、ご主人は別室に消えた。ほどなくして戻った。そして、コーヒーの準備にとりかかった。コーヒーができあがる頃、突然、別室のドアが開いた。そこから皿にのせたケーキを手にした女性が出てきた。年配の方だった。間違いなく奥様だろう。別室で、きれいにケーキをデコレートしてくれていたのである。ケーキを出すと、また別室へと消え去っていった。

何だか、店内にはいい時間が流れていた。街中の珈琲店とはまた違った味わいのあるお店だった。外を眺めると、お店のまわりには田んぼが広がっていた。ちょうど稲が育って青田と呼ぶにふさわしい季節だった。そう、このお店の名前は「青田風」だった。青田風にぴったりのタイミングで、このお店を訪れることができた。米沢を訪れる楽しみがまた一つ増えた。